

**科学研究費助成事業 研究成果報告書**

平成 28 年 6 月 21 日現在

機関番号：22604

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2012～2015

課題番号：24520587

研究課題名(和文)日本語学習アドバイジングの基盤となるデータベースの構築と運用方法の開発

研究課題名(英文)The construction and operation of the knowledgebase for Advising in Language Learning

研究代表者

黒田 史彦(Kuroda, Fumihiko)

首都大学東京・国際センター・准教授

研究者番号：60579168

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,900,000円

研究成果の概要(和文)：日本語学習者の自立的学習を実現するために、アドバイザーが備えておくべき資質がある。それは、1)学習者が自らの学習について考え、決め、行動するよう導く対話力、2)学習に対する当事者意識を学習者に持たせる能力、3)学習ニーズやスタイルに即した学習リソースを紹介する力である。日本語学習アドバイジングのためのナレッジベースである蔵は、アドバイジングにおいて即戦力となる情報を集積・共有するために開発された。言語技能、言語知識、学習背景、対応方法に分類されたアドバイジング事例を検索することにより、アドバイジング実践のための手がかりを誰でも入手でき、あらゆる学習者への手厚い対応が実現可能となった。

研究成果の概要(英文)：In order to support the learner to conduct self-directed learning, the learning advisor is required to know: 1) how to lead him/her to consider, decide and realize his/her learning through dialogues; 2) how to increase his/her sense of ownership for learning; and, 3) how to inform him/her of the learning resources corresponding to his/her needs and styles. CULLA (Common Utilities for Language Learning Advising), a web knowledgebase system for advisors, contains the practical information available for advisory service. The advisor can refer to the real record of learning advising by searching with free key words or categories such as language skills (writing, listening, reading and speaking), linguistic elements (grammar, vocabulary and pronunciation), and backgrounds for learners (proficiency levels, readiness for Kanji and learning goals). By searching the advising clue in CULLA, the advisor can find and access the most suitable one for every learner.

研究分野：日本語教育

キーワード：日本語学習支援 ナレッジベース 日本語学習アドバイジング

### 1. 研究開始当初の背景

日本語学習者の多様化や学習形態の複雑化が進んだ今日では、日本語教室における一斉授業ではなく、個々の学習者に合わせた中長期的な目標設定や、学習の適切な自己管理を促すための専門的できめ細やかな日本語学習アドバイジングの提供が必要である。

海外では、英語学習者を支援するためのアドバイジングに関する議論があるが、未だひとつの学問領域として理論整備されているとは決して言えない。日本国内の英語教育分野においても、公開されている実践例は極めて少なく、関連情報が決定的に不足しているのが実情である。

日本語教育分野に目を向けると、日本語学習アドバイジングと呼べる概念や実践例は存在していないに等しい。もちろん、学習者からの相談に対する助言活動は、日々、日本語教師や支援者が直面している課題である。しかし、「どのような相談にどう対処すればよいのか」「ニーズに応えるためにどのような学習材料が紹介できるか」といった疑問について、頼れる日本語教師用・支援者用リソースは存在しない。「アドバイジングに際してどう個別対話を展開していくべきなのか」といった実践手法についても、まったくの手探りの状況である。

このような問題を解決するためには、日本語学習者をサポートするためのアドバイジング・データベースの構築と、その効果的な運用方法の開発は急務である。

### 2. 研究の目的

本研究は、日本語教師や支援者が学習者をサポートする際に行う日本語学習アドバイジングを効果的・効率的に実現するための教育リソースとその運用手法の開発を目的とする。まず、日本語教師と支援者のサポート事例や学習者の成功体験に関する情報を収集・分類してデータベースを構築する。このデータベースを教育リソースとして活用したアドバイジングの試行を積み重ねてフィードバックを得ることにより、データベースを使い勝手の良いものに改良する。データベースを活用したアドバイジング手法を確立した上で、国内外の日本語教師や支援者に広くインターネット上に公開することにより、特別な研修機会を得られなくても、誰でも高度なアドバイジングを提供できる環境を整備する。

### 3. 研究の方法

日本語教育、教育工学、情報工学の専門家から構成される研究体制を組織し、研究活動を開始する。まず、日本語学習アドバイジングに必要なデータの収集と分析を行ないデータベース化に着手する。データの分類指標案を策定してデータ検索機能も実装する。このデータベースを用いながらアドバイジング実践を試行し、データベース開発者へのフ

ィードバックを行う。その後、試験的なアドバイジング実践を継続し、その実践例をより詳細に分析することによって、データ分類指標をより精緻化し、最終版を確定する。利用者重視のデータ検索機能とインターフェイス面での改良をデータベース・システムに加え、本格稼働させる。データベースを用いたアドバイジングの運用モデルを確立し、学術論文や口頭発表、学会でのデモンストレーションなどを通じて、本研究の成果を日本語の教育現場・支援現場に還元する。

### 4. 研究成果

日本語学習アドバイジングの初心者でもデータベースを検索して必要な情報やノウハウを収集し、自らの実践に、即、活かせる拠り所、つまり、ナレッジベース (knowledgebase) とすべく、「ナレッジベース蔵 (CULLA: Common Utilities for Language Learning Advising)」を開発し、インターネット上に公開した。



「蔵」トップページ画面

検索機能については、カテゴリ検索とキーワード検索を実装している。カテゴリ(分類指標)は、個々の実践事例をデータとして入力する際に、所定の選択肢から選ぶ仕様になっている。誰にでもイメージしやすい「言語要素」「言語技能」に加え、学習(者)に関する「学習全般」とアドバイジングの実践手法に関わる「対応方法」もカテゴリとして用意した。各カテゴリは、さらに以下のサブカテゴリに分かれており、検索しやすいよう配慮してある。

- 言語要素： 文法，語彙・フレーズ，音声，文字
- 言語技能： 話す・会話，聞く，書く，読む
- 学習全般： 初級，中級，上級，年少者，漢字圏，非漢字圏，試験
- 対応方法： 質問，接し方

例えば、「書く」というカテゴリには、次のような対応事例が収められている。いわゆるネイティブチェックを希望する学習者から相談を受けた場合に、支援者がどのような学習者向け材料やサービスを紹介で

きるかについて、参考となる具体的情報を入力できる。

#### 対応事例 1 :

日本語を使って毎週ゼミ発表をしなければならぬという大学院生から、発表原稿の作成に関する相談があった(中略)特に口頭発表にふさわしい文体・表現になっているか確認したいとのこと(中略) Lang-8 (lang-8.com) という相互添削 SNS サイトを紹介した。Lang-8 では、外国語で書いた文章を投稿すると、その言語の母語話者がチェックしてくれたり、より自然な言い回しを提案してくれたりする(後略)

また「質問」「接し方」というカテゴリには、日本語学習アドバイジングを実践する際に支援者が心掛けるべき対応姿勢に関する事例が登録されている。例えば、アドバイジングの内容をしっかりと振り返って意識させる手段を模索している場合、次のような実践手法が参考になる。

#### 対応事例 1 :

今日の相談セッションは長時間に及び、内容も多岐に渡った。最後の 10 分で、「今日の最初の問いかけは何だった?」「どう答えたんだっけ?」といった質問を相談者に投げかけて、今日のセッションで話し合ったことを確認し、改めて整理させた。同時に、振り返りの内容をメモにまとめ、忘れないように持ち帰らせた。

さらに、「初級」「会話」というカテゴリを指定して検索した場合、次のような学習マテリアルと支援事例がヒットする。

#### 対応事例 3 :

自分で教科書を使って初級の日本語を勉強しているものの、学んだ日本語を使うチャンスがなかなか得られないという学習者がいました。実際に日本語を使って会話をするのにまだまだ自信がありません。そこで、WEB 上で日本語を話す練習のできるコミュニティ「にほんごハングアウト!」を紹介しました。

このコミュニティでは、Google+ のハングアウト機能を活用して、毎週 1 回、世界中の日本語学習者が会話を楽しんでいます。毎回、会話のテーマが決まっているので、自分の言いたいことを日本語で何と言ったらいいのか、あらかじめ準備することができます。また、教科書『まるごと 日本のことばと文化』の課に沿った会話テーマが設定されることもあるので、教科書を使って事前に予習しておくこともでき、会話に自信のない人でも安心です。日本語の先生も参加しているので、いろいろな質問にも答えてくれるでしょう。

キーワードは、実践事例の特徴を表す語を、データ入力時に自由に指定する仕組みにな

っている。「韓国語話者」「アプリ」「スカイプ」などの任意の語をキーワードとし、データベース内を全文検索できる。複数のカテゴリとキーワードを組み合わせて検索することにより、参考となる実践事例や実践手法を絞り込んで効率よく探し出すことができる。

ナレッジベース蔵は、ユーザ登録すれば誰でもインターネット経由でアクセスし、無償で検索、閲覧できる。さらに、検索した実践データを PDF 化して保存、印刷する機能も備えている。このような方法・配慮により、研究成果を教育現場・支援現場へ還元するよう努めている。また、地理的な制約や研修機会の有無に関係なく、より多くの日本語教師や支援者が、高度なアドバイジングを提供できる環境の整備に貢献している。

日本語学習アドバイジングの実践事例と実践手法に関しては、研究代表者が携わっていた学習支援組織における記録を基礎データとしている。しかし、ナレッジベースとしての有用性を高めるためには、現在の基礎データだけでは質・量ともに十分ではない。そこで、アドバイジング実践に関心のある教師や支援者に協力を仰ぎ、各々が取り組んできたアドバイジング的活動に関するデータを入力してもらえシステムを導入している。ナレッジベース蔵は、日本語学習アドバイジングに取り組む人たちが相互扶助的に知恵を持ち寄って成長させる共有・共用リソースと呼べる。

ひとりでも多くの協力者を得て実践事例データベースを増強することにより、日本語学習アドバイジングのための共有・共用リソース「ナレッジベース蔵」の完成度を高める努力を継続していかなければならない。日本語学習アドバイジングという理念の浸透と日本語学習アドバイザの普及が、今後の目標である。ナレッジベース蔵を活用することにより、「考える学習者」はもちろん、「考えるアドバイザ」が育っていくことにも期待している。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 3 件)

黒田史彦・山内薫, 自らと日本語との関係の捉え直し ポートフォリオ活動をとおして, 日本語教育方法研究会誌, vol. 22, no. 3, pp. 58-59, 査読なし, 2015 年

Kuroda, Fumihiko, Knowledgebase CULLA and its contribution to the ICT Learning. The 6th International Conference on Computer Assisted Systems for Teaching and Learning Japanese (CASTEL/J) Proceedings, pp. 119-122, 査読なし, 2015 年

黒田史彦, 学習リソース情報共有データベースを活用した学習支援, 日本語教育方法研究会誌, vol.21, no.2, pp.8-9, 査読なし, 2014年

〔学会発表〕(計4件)

黒田史彦・山内薫, 自らと日本語との関係の捉え直し ポートフォリオ活動をとおして, 第46回日本語教育方法研究会, 2016年3月19日, 国際交流基金日本語国際センター(埼玉県さいたま市)

Kuroda, Fumihiko, Knowledgebase CULLA and its contribution to the ICT Learning. The 6th International Conference on Computer Assisted Systems for Teaching and Learning Japanese (CASTEL/J), 2015年8月7日, University of Hawaii, Capiolani Community College, ホノルル(アメリカ合衆国)

黒田史彦, 日本語学習アドバイジングを支える「ナレッジベース蔵」, 日本語教育学会2014年度秋季大会, 2014年10月12日, 富山国際会議場(富山県富山市)

黒田史彦, 学習リソース情報共有データベースを活用した学習支援, 第43回日本語教育方法研究会, 2014年9月6日, 藤女子大学(北海道札幌市)

〔図書〕(計0件)

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

名称:  
発明者:  
権利者:  
種類:  
番号:  
出願年月日:  
国内外の別:

取得状況(計0件)

名称:  
発明者:  
権利者:  
種類:  
番号:  
取得年月日:  
国内外の別:

〔その他〕

ホームページ等  
<http://culla.ic.tmu.ac.jp/>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

黒田 史彦 (KURODA, Fumihiko)  
首都大学東京・国際センター・准教授  
研究者番号: 60579168

(2) 研究分担者

( )

研究者番号:

(3) 連携研究者

( )

研究者番号: